

大雪山の火山活動解説資料（令和元年7月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図3～5）

19日に北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しました。旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さや地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②、図2）

16日に火山性地震が一時的に増加しましたが、その他の期間は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

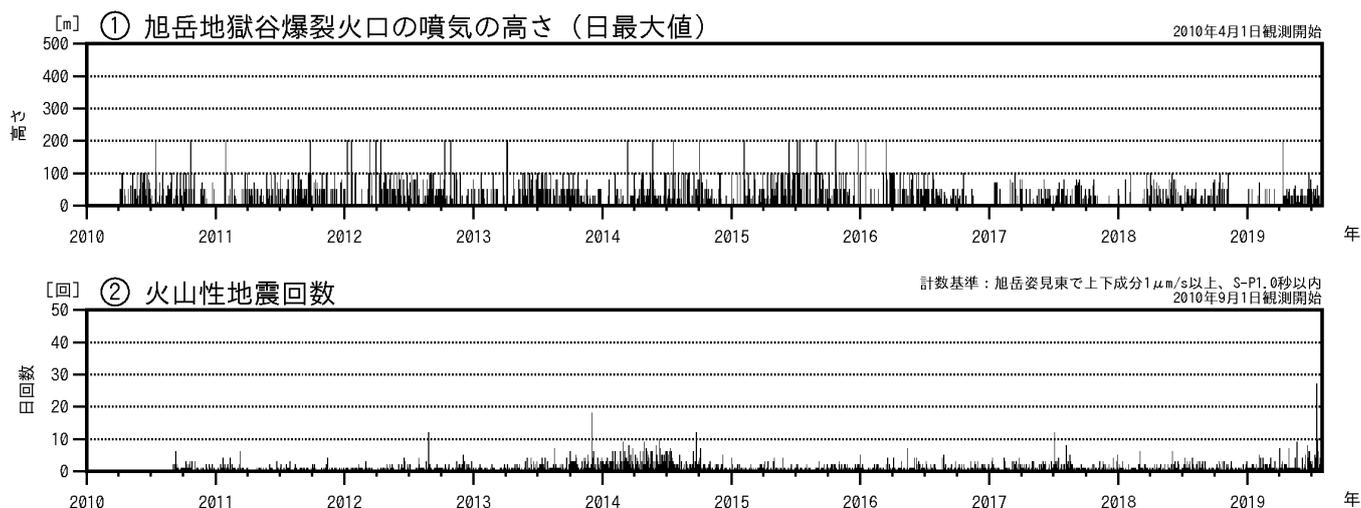


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2019年7月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）。

次回の火山活動解説資料（令和元年8月分）は令和元年9月9日に発表する予定です。

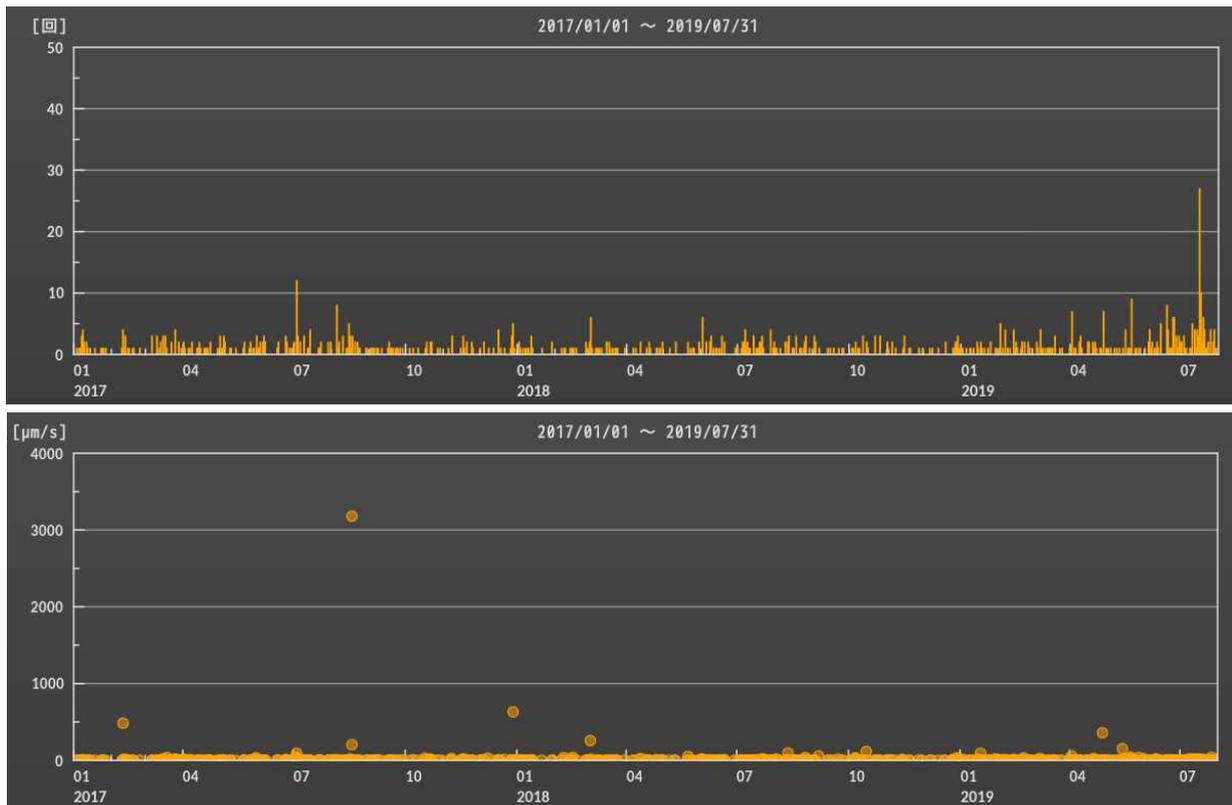


図2 大雪山 火山性地震の日回数及び最大振幅（2017年1月～2019年7月）

上段：火山性地震の日回数

下段：旭岳姿見東観測点（速度上下成分）の最大振幅

- ・16日に振幅の小さな火山性地震が一時的に増加しましたが、その他の期間は少なくて経過しました。



図3 大雪山 西側から見た旭岳の状況（7月22日、ちゅうべつこひがし 忠別湖東監視カメラによる）

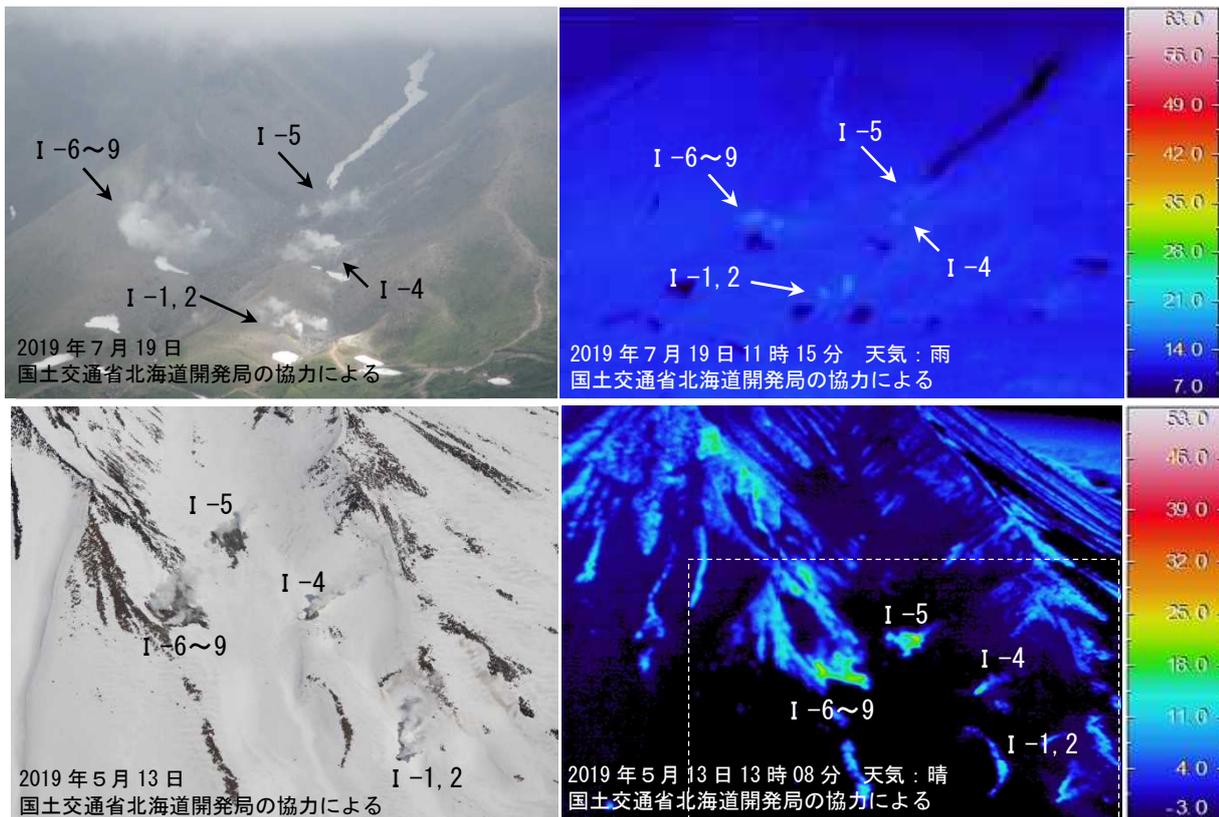


図4 大雪山 赤外熱映像装置による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布

上：西側上空（図5-①）から撮影

下：西側上空（図5-②）から撮影

下図、赤外熱映像内の白枠は、可視画像の撮影範囲を示しています

- ・旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の状態や地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。（今回の観測時は気象条件が悪く（天気：雨）、可視画像・赤外熱映像ともに不明瞭になっています。）

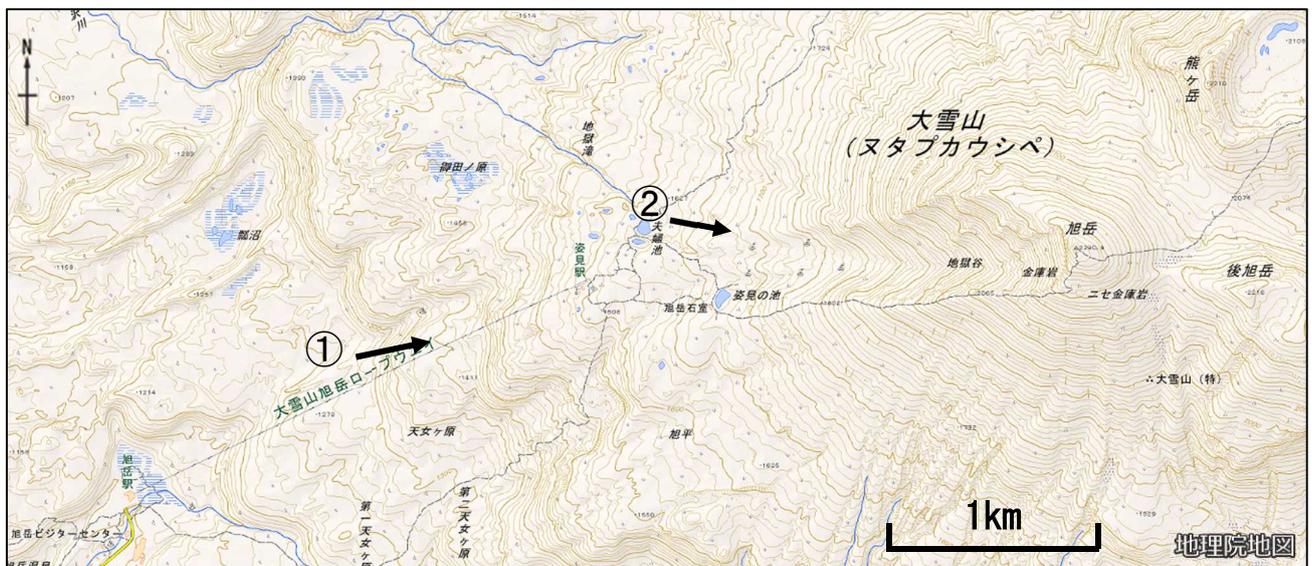


図5 大雪山 写真及び赤外熱映像の撮影方向

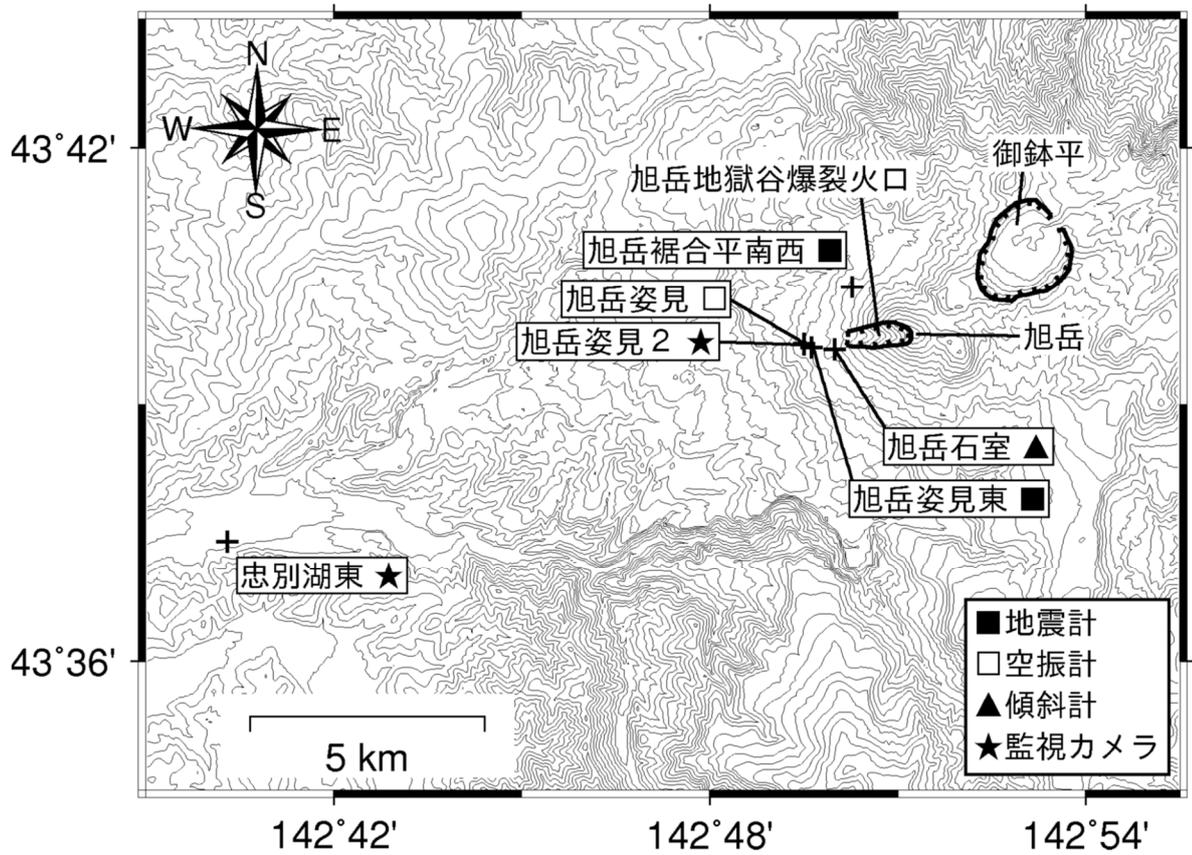


図6 大雪山 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。